

令和5年度 行政評価結果

【第2巻 戦略プロジェクト評価】

評価からはじめるまちづくり

令和5年 12月

盛岡市

目 次

I 戦略プロジェクトについて

- 1. 戦略プロジェクトとは何か 1
- 2. 令和5年度戦略プロジェクト 2

II 戦略プロジェクト評価について

- 1. 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか .. 3
- 2. どのような仕組みか 4
- 3. 評価結果を何に反映させるのか 4

戦略プロジェクト評価シート中の成果指標の評価基準 5

戦略プロジェクトロジックモデルシートの見方 6

重点1 未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト・・ 7

重点2 回復から成長へ！まちなか交流・にぎわいプロジェクト・ 12

I 戦略プロジェクトについて

1 戦略プロジェクトとは何か

平成27年度からスタートした総合計画の基本目標^{*1}を達成するため、各分野の29施策^{*2}において、それぞれ取組を推進していく一方で、未来に向け、特に重点的・施策横断的に取り組む必要のある課題に対応するため、施策単位での取組を連携させながら事業実施の効果を高め、課題を解決し、基本目標の達成や将来像の実現を目指していく必要があります。

このことから、本市の課題等を踏まえた、重点的・施策横断的な取組を「戦略プロジェクト」として展開します。

取組期間は、おおむね3年を目途に重点を置いた取組を進めます。

*1 基本目標

総合計画の基本構想に掲げている「目指す将来像」の実現のため、まちづくりの理念や方向性を表したもの

*2 施策

目指す将来像の実現に向けて取り組む課題を明確にするために、4つの基本目標の下に位置付けたもの。施策毎に目標値を設定するなどして達成度の評価を行います。

2 令和5年度戦略プロジェクト

重点1 未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト

ものづくり人材や意欲ある農林業の担い手の育成、支援など、若者を中心とした盛岡で働く人を育てるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響による企業調達の国内回帰やサプライチェーンの分散化などの動きを把握しながら、戦略的な企業誘致や新産業等用地の整備、地元企業への支援などを通じて、盛岡の働く場を創出します。

また、テレワーク等ICT活用による新しい働き方の導入、AI、IoT等の新技術の活用による生産性の向上、盛岡産農畜産物の優位性を生かした付加価値向上など、地元企業や農林業などの効率性や生産性を高め、地場産業の基盤の安定化と魅力向上により、地域経済の活性化と人口流出の抑制を図り、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進します。

重点2 回復から成長へ！まちなか交流・にぎわいプロジェクト

令和5年1月に発表された米ニューヨーク・タイムズ紙（電子版）の「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が選ばれたことが本市の魅力を発信する絶好の機会となっており、更なる誘客促進や消費の拡大等を図る「コロナからのV字回復」に取り組みます。

また、感染拡大防止と社会経済活動を両立させながら、芸術や文化、スポーツ等を通じて人々が交流できる機会の創出や、関係人口・交流人口の創出・拡大により、観光客や市民等によるまちなかの社会経済活動の活性化を推進する「ポストコロナの交流・新展開」に取り組むとともに、盛岡バスセンターのにぎわい機能による周辺エリアの価値向上や、商店街の活性化支援等による「市民の日常に生まれるにぎわいの創出」に取り組みます。

Ⅱ 戦略プロジェクト評価について

1 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか

戦略プロジェクト評価は、各戦略プロジェクトが目的や目標に対し、どの程度達成されたか等の視点により評価するとともに、ロジックモデルシートを活用した戦略プロジェクトと構成事業の関係性や成果の顕在化についても評価しています。

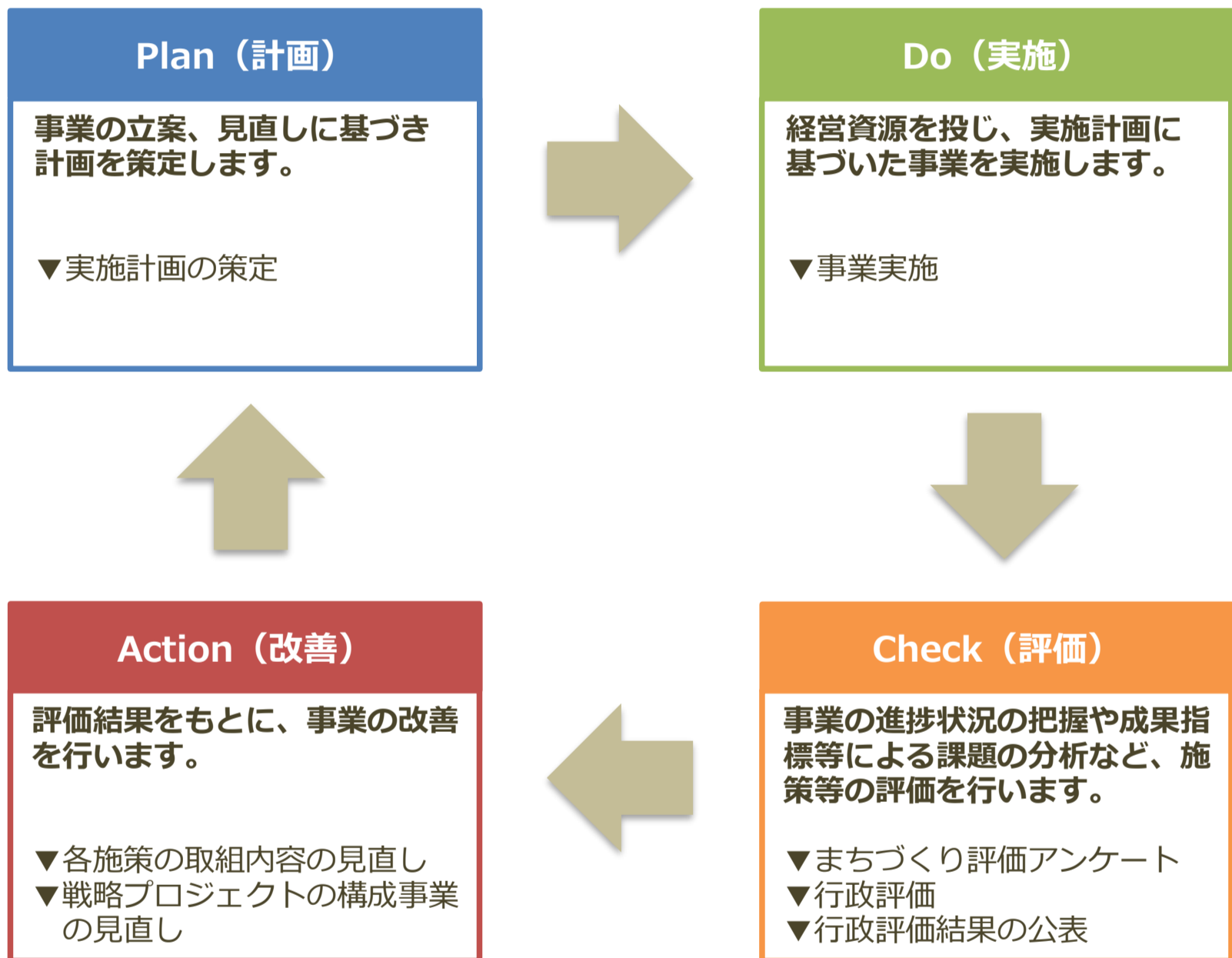
なお、評価シートでは、戦略プロジェクトの目標値に対する実績値の推移をグラフ化して表すとともに、実績の評価を踏まえた今後の展開についても示しています。

戦略プロジェクトは、設定した取組期間内において目標を達成することが求められていることから、前年度の実績を踏まえながら当該年度の評価時点における進捗状況評価（事中評価）を実施することで、戦略プロジェクトの着実な推進を図ります。

2 どのような仕組みか

計画（PLAN）→実施（DO）→評価（CHECK）→改善（ACTION）の循環（マネジメントサイクル）を確立し、市の行政活動について絶えず振り返りを行うことにより、次年度以降の企画の立案や予算編成に反映させていく仕組みです。

○総合計画の進行管理



3 評価結果を何に反映させるのか

戦略プロジェクト評価の評価結果は、今後の戦略プロジェクトの推進や構成事業の見直しに活用するとともに、戦略プロジェクトの期待する効果の実現に向けて特に高い効果が得られる事業に対し、重点的に予算を配分するなど、予算編成に活用することとしています。

戦略プロジェクト評価シート中の成果指標の評価基準

各施策・取組の評価基準は、原則として次のとおりとしています。

なお、下記評価基準のうち、成果指標の性格が「↓」のものは、“減少”を“増加”に読み替えます。

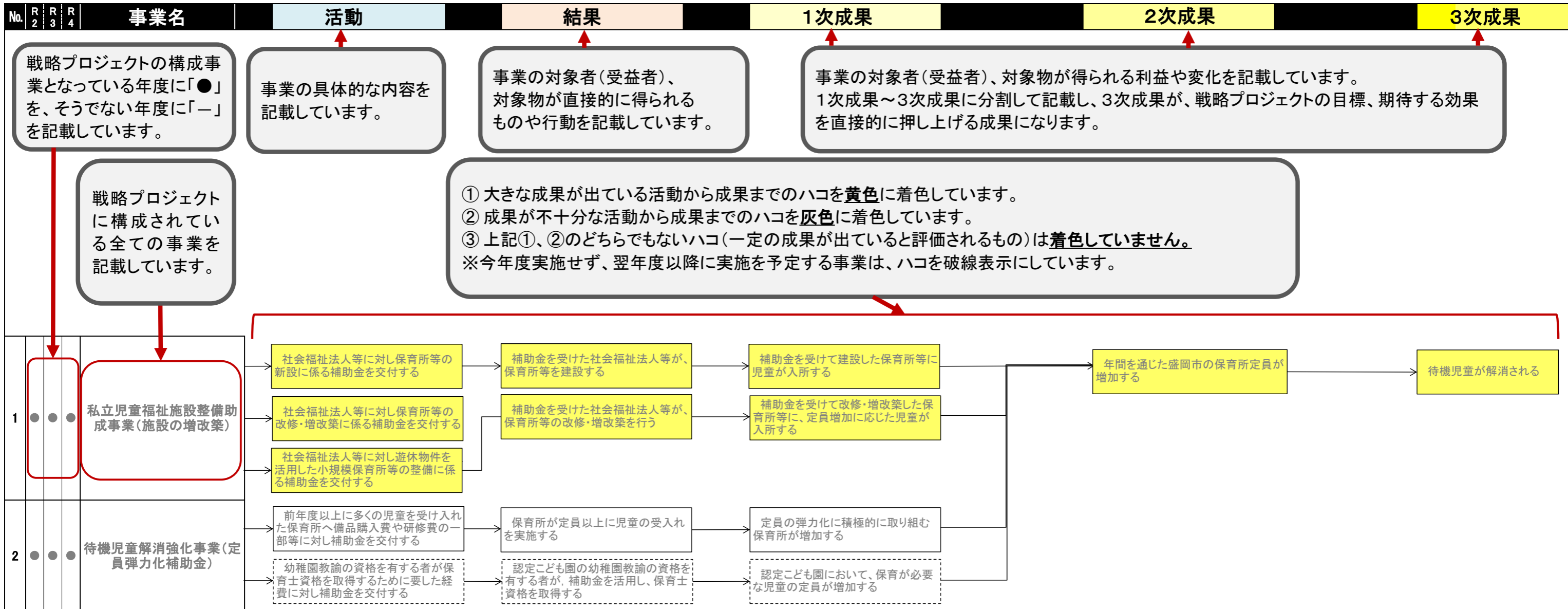
- (1) 令和5年度実績値が、最終年度の目標値を達成しているものについては、「目標値に到達（☆）」と評価します。
- (2) 令和元年度を基準として、最終年度目標値に対し、令和5年度の進捗率が2割を超えるものについては、「目標値に向け順調に推移（◎）」と評価します。
- (3) 令和元年度を基準として、最終年度目標値に対し、令和5年度の進捗率が2割以下の場合については、「目標値に向け推移（○）」と評価します。
- (4) 令和元年度の基準値と令和5年度の実績を比較して、減少又は停滞しているものについては、「遅れが生じている（△）」と評価します。

戦略プロジェクト ロジックモデルシートの見方

- ロジックモデルとは、ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したものです。
- 戦略プロジェクトにおけるロジックモデルシートは、各事業がどういった論理（ロジック）で戦略プロジェクトの期待する効果に至るのか、その過程を、数段階（活動、結果、一次成果、二次成果、三次成果）に分けて整理しています。つまり、活動から右へ順に、時間の経過にともなう成果の流れを表しています。
- ロジックモデルシートを作成するにあたっては、経験と事業実績に基づいて、「こうなることによってこうなる、その結果こうなる・・・」という論理の流れを考えます。このような論理的な根拠を持ったより良い仮説を立てることが、より有効性の高い事業をつくりだすことにつながると考えています。また、毎年このロジックモデルを検証し、見直すことによって、戦略プロジェクトの期待する効果の達成を目指します。

ロジックモデルシート(令和〇年度評価/令和〇年7月作成)

[重点〇]例)子ども・子育て安心プロジェクト



【戦略プロジェクト評価(令和5年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト	戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
期待する効果	若者・女性の地元定着と活躍により持続可能で活力のあるまちになる	<p>人口減少社会の地域経済において若者の地元定着は大きな課題だが、県内大学生の県内就職率は約4割と低く、特に理工系人材は約8割が県外に流出している。加えて、結婚・出産期の女性に転出超過の傾向が見られ、中・長期的には自然減による人口減少への影響も懸念される。これらの背景には東京圏との所得水準の差やIT関連を始めとする企業の受け皿不足のほか、第三次産業に偏った産業構造、地元企業の認知度の低さ等が挙げられる。</p> <p>その一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、ICTの進展を背景とする柔軟な働き方やビジネスモデルの変化、地方への人の流れや地元志向の高まり等、地方創生に向けて好機と捉えるべき変化も起き始めている。</p>	<p>○ DX時代のしごとづくり 国によるデジタル実装を通じた地方活性化の推進により、IT分野の需要が更に高まっていくことを見据え、若者をひきつける魅力的な働く場を創出するため、企業誘致やIT産業が集積する本市の強みを活かした異業種間のマッチングやクラスター形成支援に取り組む。また、AI、IoT等のデジタル技術を活用した生産性向上や新たな事業展開による地元企業の雇用拡大を支援するほか、社会の変化を捉えた新たなビジネスの創出を支援する。</p> <p>○ 若者と地元産業をつなぐ 若者と地元産業をつなぎ、本市への定着を図るため、コロナ禍における地方・地元志向の高まりを好機と捉え、高校生や大学生等が学校の枠組みを超えて地域を知り、社会人と交流しながら地域課題の解決に取り組む場の提供や、若者が本市で働き、生活することの魅力効果的に発信するとともに、インターンシップや就職ガイダンス等により地元企業の認知度の向上や就業希望者とのマッチングを支援するほか、新社会人を対象としたコミュニケーションスキル研修などの実施による職場定着の支援に取り組む。また、特に人手不足が深刻な保育士や介護職については、奨学金返還支援等により東京圏との待遇差による影響の解消に努める。</p> <p>○ 仕事と子育ての希望をかなえる 女性が安心して子どもを産み育て、社会進出しやすい環境づくりを推進するため、ICTを活用した働き方改革等、地元企業のワーク・ライフ・バランスの取組を支援する。また、SNSを活用した効果的な子育て情報の発信や、子ども未来基金を活用した子育て支援、児童センター整備等による就学期の子どもの居場所づくりに取り組むほか、男性の育児参画や働く女性の交流を支援する。</p>
重点取組期間	令和4～6年度		
主管部名	商工労働部 ・ 子ども未来部	対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
戦略プロジェクト統括マネージャー	赤坂 國彦 商工労働部長 高橋 享孝 子ども未来部長	若者	盛岡でやりがいのある仕事に就き、暮らし続ける
		女性	仕事と子育ての両立が進み社会進出が活発になる

目標指標の状況・評価(令和5年7月時点)

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた今後の取組
指標	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析		
指標① 市内IT産業事業所数 当初値(R1) 119 R6目標値 160 目指す方向 ↗ 	社	◎	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、IT関連事業者3者と立地協定を締結した。 また、IT産業振興戦略に基づき、以下の取組を展開した。 盛岡AI・IoTプラットフォーム事業により、セミナー・学習交流会、実証実験支援、IT人材育成等を行うとともに、活動内容をホームページやパンフレットで周知し、サテライトオフィス誘致に取り組んだ。 未来技術の導入等に関心のある民間事業者等による「マルチモ盛岡推進協議会」を組織し、本市の取組に関心を示した企業等が参画する機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市への立地等に関心のある企業に対して、パンフレットやホームページ等により、IT産業振興に積極的に取り組んでいることを伝えることができています。 理工系の大学や専門学校があり、理工系人材が豊富である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 企業ニーズの高い「IT人材育成」に関する取組を充実させ、企業の参画を促進する。 ☆2 盛岡に集積する新しい技術やサービス開発に取り組む企業を周知・育成するとともに、IT企業集積拠点を創出し、スタートアップ企業の集積を促進する。 ☆3 北上川バレープロジェクトの実現に向け、IT企業のみならず製造業の立地による「稼ぐ力」を強くするほか、産業の高度化・高付加価値化を達成し、若者の地元定着等を実現する。 	
「指標の目指す方向」に向けた問題点			問題点の要因分析			
<ul style="list-style-type: none"> 市内IT産業事業所数が微増にとどまっている。 プラットフォームの各種事業や、スマートシティ関連事業等により、デジタル技術を活用する企業が集まり、実証実験等に取り組んでいるが、共創によるビジネス上の社会実装に至っていない。 			<ul style="list-style-type: none"> IT企業が集積するオフィスが不足している。 参集企業間のより深い結びつきを形成していく必要があり、企業間の交流を促進する施策や場所が必要である。 			
指標② 県内大学生県内就職内定率 当初値(H29) 43.6 R6目標値 50.0 目指す方向 ↗ 	%	△	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業における若者の人材確保・採用力向上に向けて、学生と市内企業をつなぐ取組や企業の働く場としての魅力向上を図る取組を複合的に実施するほか、学生へのカウンセリング等による就職支援を平行して実施している。 奨学金返還事業を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ジョブカフェいわて運営事業により、多くの学生にきめ細やかな就職支援を行っており、利用者に寄り添った伴走的支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 県外大学等の学生のUIターンを促進するため雇用創出や創業支援に係る取組を行う。 ☆2 地元企業の働く場としての魅力向上を図る。 ☆3 首都圏との待遇格差の解消に資するため、DXの推進などにより、地域経済の活性化や企業収益向上を目指す取組を行う。 ☆4 若者の創業・起業を支援するための取組を行う。 ☆5 魅力的な就職先確保のため製造業などの誘致や立地可能な土地を確保する。 ☆6 学生向けに奨学金返還支援事業の周知を更に進め、市内事業所への補助対象者を増加させる。 	
「指標の目指す方向」に向けた問題点			問題点の要因分析			
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、大学生の就職先として地元志向が高まり、令和2年度・3年度の県内就職内定率は上昇傾向にあったが、令和4年度は前年と比較して3.9ポイント減少している。 本市に希望する就職先がないことから県外へ就職を決めたとのアンケート調査結果がある。 奨学金返還支援事業の認知度がまだ高くないため、市内事業所への誘引が限定的である。 			<ul style="list-style-type: none"> 市内企業の知名度が首都圏の企業と比較して高くないことや、新型コロナウイルス感染症影響が弱まったことを受けて、再び学生の県外志向が高まっているものと思われる。 本市の産業構造は、約9割が第3次産業となっている。 奨学金返還支援事業の資格者養成校や大学への周知が十分でない。 			

指標③ 「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合 当初値(H29) 15.2 R6目標値 50.0 目指す方向 ↗	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
	%	○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童センターの未設置学区への整備について、向中野小学校区の児童センターが令和5年4月から利用できるようになった。 ・子ども未来基金を活用した補助事業により、令和4年度は17の個人・団体が子ども・子育て支援の活動を行った。 ・保育士奨学金返還支援給付金により166名の保育士に、保育士宿舍借上げ支援事業により35事業者・延べ50施設に、若手保育士処遇改善支援事業により30事業者・延べ44施設に補助を行った。 ・医療的ケアを行う児童を受け入れた保育施設に対し、必要となる経費の補助を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童センターが未設置の小学校区について、順次整備を進めている。 ・子ども未来基金を活用した子育て支援事業の実施団体が、令和3年度から2団体増加した。 ・若手保育士が働き続けられるよう経済的支援の拡大を図ったことで、保育士確保に繋がっていると考えられる。 ・医療的ケアを行う児童を受け入れる保育施設に対し、支援を行い、医療的ケアを行う児童の受け入れ施設を確保した。
			「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
			<ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合は、令和2年度23.2%、3年度19.0%、4年度20.8%と、20%前後で推移しており、6年度の目標値50.0%とは大きな差がある。 ・市内の全ての児童に対して健全な遊びの場を提供するため、児童センターが未設置の小学校区の解消を進める。 ・市の子育て支援策・支援活動に関する情報発信を効果的に行う必要がある。 ・保育ニーズに対応した定員を維持するとともに、保育を担う保育士の確保を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援ニーズに関するアンケート調査では、充実を望む支援策として「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」を求める声が70.1%と高いことから、施設を充実させて利用者を増やすことが、子育ての不安感や孤立感の解消につながるものと考えられる。 ・児童センターが未設置の小学校区において、身近に遊べる施設がない(少ない)。 ・スマートフォンの活用等により、子育て世代が気軽に情報を取得できる環境が求められている。 ・関東地方など都市部に就職先を求める保育士が増えている。
指標④ 女性活躍推進法に基づく市内の認定企業数(えるぼし認定) 当初値(H30) 6.0 R6目標値 20.0 目指す方向 ↗	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
	社	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が能力を発揮しやすい職場環境を整え、国から認定を受ける市内事業所が着実に増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が能力を発揮しやすい職場環境整備が、優秀な人材の確保や企業イメージの向上など企業の成長に繋がるという認識が浸透しつつある。
			「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
			<ul style="list-style-type: none"> ・市内の認定事業所がまだ少なく増加の余地は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の認知や、認定を受けることで企業のイメージアップや優秀な人材の確保に繋がるなどのメリットがまだ広く伝わっていない、または、職場環境整備の重要性は理解しているものの、取り組む余裕がない事業所が多くあることが予想される。

- ☆1 児童数が増加している盛南地区への地域子育て支援拠点の開設を進める。
- ☆2 児童センターが未設置の小学校への整備を進める。
- ☆3 スマートフォン等で利用できる「もりおか子育てアプリ」による情報発信を積極的に行い、利用者の拡大を図る。
- ☆4 保育士の確保に向けて、雇用環境の改善に取り組む。

- ☆1 人材育成セミナーなどの啓発事業を実施し、企業の取組を支援する。

※進捗状況の評価(4段階) ☆:目標値に到達、◎:目標値に向け順調に推移、○:目標値に向け推移、△:遅れが生じている

事業No.	担当課等	事業名	R5予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
1	農政課	スマート農業導入促進事業	4,500	4 農業用ドローンや遠隔操作等草刈機の購入や農業用ドローンのオペレーター講習を受講する農業者に対し、補助金を交付する	2・3 農業者が、補助金を活用し、農業用ドローンや遠隔操作等草刈機の購入と農業用ドローンのオペレーター講習を受講する	農作業の効率化と生産性の向上が図れる	市民が食と農の魅力を感じ、誇りをもってその魅力を発信する	
2	経済企画課	商業振興事務(中小企業者人材育成事業)	300	34・35 市内の中小企業の社員が中小企業大学校等の研修を受講する際の受講料の一部に対し、補助金を交付する	33 市内の中小企業の社員が、中小企業大学校等の研修を受講する	研修を受けた中小企業の経営の安定化が図られる 32 研修を受けた中小企業が、市場等のニーズに応じた新製品、新技術の開発やネットワーク形成を図る	中小企業大学校等の研修を受けた中小企業の所得が向上する	ものづくり産業における人材確保が進む
3	新産業拠点形成推進事務局	盛岡南地区物流拠点整備事業	84,450	233 民間事業者主体による物流拠点の整備を推進する	物流拠点が整備される	開発事業者により誘致された物流事業者が立地する	物流事業者による雇用が創出される 物流機能の充実により企業誘致が促進され、関連企業が立地する	
4	ものづくり推進課	盛岡AI・IoTプラットフォーム事業	16,900	190 セミナーや勉強会、実証実験等を行う DX人材育成講座や学生デジコン等の人材育成事業を実施する	デジタル技術に関連する当市の取組が周知される 191 地元企業の社員及び学生から、IT高度人材が育成される	当市のIT関連の取組が全国に認知され、さらなる集積や共創が促進される 盛岡広域のIT産業振興の中核をなす人材が育成される	理工系人材が魅力を感じるスタートアップ拠点が形成される	
5	ものづくり推進課	スマートシティ関連事業	0	スマートシティ関連事業として、協議会を設置する	192 未来技術に関心のある事業者が協議会に参画する	未来技術に関心のある事業者が複数参画し、コミュニティが形成され、共創が促進される	理工系人材が魅力を感じるスタートアップ拠点が形成される	
6	ものづくり推進課	地域企業成長加速支援事業	11,000	227 事業拡大に取り組む企業を対象とする集中的な経営上の支援(アセラレータープログラム)の実施を委託する	226 IT関連企業及びデジタル技術活用による事業拡大に取り組む企業が経営に関する専門家から支援を受ける	盛岡広域のIT関連企業及びデジタル技術活用による事業拡大に取り組む企業の事業が成長する	224・225 IT関連企業などの雇用の枠が拡大する	
7	ものづくり推進課	成長分野拠点形成支援事業	8,300	38 クラスター構成企業の国内外での新展開や新事業の創出を目的としたセミナーの開催を委託する 41 クラスター構成企業に対する各種コーディネート業務を委託する 235 盛岡ヘルスケア産業協議会に、国内展示会への出展支援に係る負担金を支出する 49 岩手県内での就職関連イベントへのクラスター構成企業の出展を委託する 53 盛岡市周辺の学生とクラスター構成企業の代表者による交流会の開催を委託する 58 盛岡市周辺の学生を対象としたインターンシップの実施を委託する 63 県外の学生を対象としたインターンシップの実施を委託する	36・37 委託を受けた事業者が、クラスター構成企業の国内外での新展開や新事業の創出に向けたセミナーを開催する 委託を受けた事業者が、各種コーディネート業務を実施する 234 盛岡ヘルスケア産業協議会として国内展示会に出展することにより、支援対象企業の取り組みを対外的に広くアピールする 47・48 委託を受けた事業者が、岩手県内での就職関連イベントへのクラスター構成企業の出展を行う 50・51・52 委託を受けた事業者が、学生とクラスター構成企業の代表者による交流会を開催する 56・57 委託を受けた事業者が、盛岡市周辺の学生を対象としたインターンシップを実施する 61・62 委託を受けた事業者が、県外の学生を対象としたインターンシップを実施する	クラスター構成企業が、国内外での新展開や新事業を創出する クラスター内外の企業の連携による新事業が創出される 40 クラスター構成企業が増加する 支援対象企業の他地域での展開により事業が拡大する 就職関連イベントに参加した学生が、クラスター構成企業の採用試験を受ける クラスター構成企業の代表者との交流会に参加した学生が、クラスター構成企業の採用試験を受ける 55 インターンシップに参加した盛岡市周辺の学生が、クラスター構成企業の採用試験を受ける 60 インターンシップに参加した県外の学生が、クラスター構成企業の採用試験を受ける	次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業が、市民に認知される 次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業が、ビッグデータ化される 就職関連イベントに参加した学生が、クラスター構成企業に就職する クラスター構成企業の代表者との交流会に参加した学生が、クラスター構成企業に就職する 54 インターンシップに参加した盛岡市周辺の学生が、クラスター構成企業に就職する 59 インターンシップに参加した県外の学生が、クラスター構成企業に就職する	次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業がヘルスケア産業として成立する
8	ものづくり推進課	工場新設拡充等事業	78,665	67 市の区域内に工場・事業所等の新設・拡充を行う市内既存企業や誘致企業に対し、補助金を交付する 70 道明地区新産業等用地への誘致に向けた企業へのアンケート調査を委託する 71 道明地区新産業等用地に工場等を新設拡充した企業に対し、投資額に応じた補助金を交付する	66 補助金を受けた企業が、工場・事業所等の新設・拡充を行う 委託を受けた事業者が、企業へのアンケート調査を実施し、立地意向や市への要望を収集分析する 69 補助金を受けた企業が、道明地区に工場等の新設・拡充を行う	補助金を受けた中小企業の収益性が向上する 補助金を受けた中小企業が、新たな人材を雇用する	工場等新設拡充促進事業補助金を受けた中小企業の所得が向上する	
9	ものづくり推進課	盛岡広域企業誘致推進事業	814	196 盛岡広域産業成長推進協議会に負担金を支出する	195 盛岡広域産業成長推進協議会が企業立地セミナーを実施する	194 企業立地セミナー参加者に対し、盛岡の企業立地環境の周知が図られる	193 企業が、市内に立地を行う	
10	ものづくり推進課	産業支援事業	1,199	75・76 大学等との共同研究を希望する中小企業等に補助金を交付する 78・79 中小企業や工業関係団体からの要望を受け、中小企業診断士等の各種専門家を派遣する	74 補助金を受けた中小企業が、大学等との共同研究を行う 77 中小企業診断士等の専門家が、中小企業や工業関係団体が抱える課題について、解決に向けた支援を行う	73 市場等のニーズに応じた新製品、新技術の開発やネットワークが形成される 支援を受けた中小企業の経営の安定化が図られる	中小企業診断士等の専門家からの支援を受けた中小企業の所得が向上する	
11	ものづくり推進課	産業支援センター管理運営事業	16,612	82 盛岡市産業支援センターの管理運営を指定管理者に委託する	指定管理者が、盛岡市産業支援センターの管理運営を行う	81 起業を目指す人が、産業支援センターに入居し、インキュベーションマネージャーによる指導・助言を受ける	80 産業支援センターの入居者が、市内で起業する	
12	ものづくり推進課	産学官連携研究センター管理運営事業	18,480	89 指定管理者に委託する	指定管理者が、産学官連携研究センターの管理運営を行う	87 企業と岩手大学との共同研究等により新技術が開発される 88 企業が研究成果の事業化に向けた支援を受ける	86 産学官連携研究センターの入居者が、市内に企業を立地する	
13	ものづくり推進課	新事業創出支援センター管理運営事業	8,093	91 新事業創出支援センターの管理運営を指定管理者に委託する	指定管理者が、新事業創出支援センターの管理運営を行う	新事業創出支援センターの入所者が、独自の技術や新製品を開発する	90 新事業創出支援センターの入所者が、市内に企業を立地する	
14	ものづくり推進課	起業家支援事業	100	85 地域人材育成ネットワーク事業実行委員会に負担金を支出する	84 地域人材育成ネットワーク事業実行委員会が、起業家塾を開催する	83 起業を目指す人が、起業家塾に参加し事業立上げの手順や事業成功のノウハウ等を学ぶ		
15	新産業拠点形成推進事務局	新産業等用地整備事業	570,974	72 道明地区新産業等用地整備について、業務委託等により実施する	道明地区に、ものづくり拠点としての新産業等用地が整備される	68 道明地区新産業等用地に、食料品製造業等のリーディング産業や医療分野を中心とした先端技術を有する企業が集積する	クラスター構成企業の所得が向上する	

事業No.	担当課等	事業名	R5予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
16	保育サービス推進室	保育士確保対策事業(保育士奨学金返還支援給付金)	10,117	97 対象の保育士について、奨学金返還費用の一部に対して給付金を支給する	96 保育士の生活上の経済的負担が軽減される	94 保育士として就職する人が増加する	93 他都市との待遇格差の解消が促進され、人材の流出が抑えられる	92 人材の定着化が図られ、市内の保育士が確保される
17	保育サービス推進室	保育士確保対策事業(保育士宿舍借上げ支援事業補助)	77,284	98 対象の保育士の宿舍借上げ費用に対して補助金を交付する		95 保育士の離職率が低下する		
18	保育サービス推進室	保育士確保対策事業(若手保育士等処遇改善事業補助)	6,165	99 対象の保育士の処遇改善費用に対して補助金を交付する				
19	保育サービス推進室	保育士確保対策事業(保育体制強化事業)	18,000	203 保育支援者を配置する費用に対して補助金を交付する				
20	介護保険課	介護従事者確保事業(介護職員奨学金返還支援事業)	9,415	205 対象の介護職員について、奨学金返還費用の一部に対して補助金を交付する	補助金を受給した介護職員の生活上の経済的負担が軽減される	204 補助金を受給した介護職員の離職率が低下する	他都市との待遇格差の解消が促進され、人材の流出が抑えられる	人材の定着化が図られ、市内の介護職員が確保される
21	介護保険課	介護従事者確保事業(介護の仕事魅力発信事業)	152	207 市内介護施設の職員による、小・中学校、高校への出前講座を実施する	小中高生が介護について知る機会が提供される	206 介護職を身近に感じ、職業選択肢のひとつとなる	介護職の就職希望者が増加する	出前講座を行った施設等への就職により、市内の介護職員が増加する
22	都市戦略課	移住・定住・交流人口対策事業(移住・定住の促進)	23,301	110 盛岡暮らし等に関する移住ツアー業務を委託する 111 移住・定住関連のイベントに負担金を支出する 112 移住・定住促進のため、移住コーディネーターを任用する	106 盛岡暮らし等に関する移住ツアーが実施される 107 移住・定住関連のイベントに出展する 108 移住コーディネーターが、移住・定住を考えている人の相談業務を行う	103 盛岡暮らし等に関する移住ツアーに参加者が来る 104 移住・定住関連のイベントに参加者が来る 移住・定住を考えている人が、実際の生活に向けた課題解決への支援を受けることができる	移住・定住先としての盛岡の魅力や具体的な課題が認識される 盛岡を愛する人が増える	101 移住・定住先として、盛岡に興味を持ち、移住・定住に向けた具体的な検討を行う人が増える 100 移住者が増加し、地元企業の認知度が向上する 交流人口が増加し、市外の若者が市内企業を知る機会を得る
23	経済企画課	若者の就業支援事業(高校生等地元就職フォローアップ事業)	1,437	115 「モリオカゴトカメラ」サイトの改修を委託し、若者の採用に積極的な地元企業の情報を掲載することが可能となる。	114 高校生が改修した「モリオカゴトカメラ」サイトを閲覧する。	高校生が、地元で働く魅力を感じるほか、若者の採用に積極的な地元企業の情報入手し、地元企業の採用試験を受ける。	「モリオカゴトカメラ」サイトを見た高校生が、地元企業に就職する	113 高校生の県内就職内定率が向上する ものづくり産業における人材確保が進む(再掲)
24	経済企画課	若者の就業支援事業(新社会人就職定着支援事業)	1,975	118 就職後3年目までの若手社員を中心としたコミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修等の実施を委託する	116・117 委託を受けた事業者が、就職後3年目までの若手社員を中心に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修等を実施する	研修を受けた若手社員の離職率が減少する 研修を受けた若手社員がいる企業の経営の安定化が図られる	研修を受けた若手社員がいる企業の所得が向上する	
25	経済企画課	若者の就業支援事業(高校生インターンシップ事業)	53	119・120・121 高校生を対象とした地元企業へのインターンシップを実施する	インターンシップに参加した高校生の地元企業の認知度が高まる	インターンシップに参加した高校生が、経験した企業の採用試験を受ける	インターンシップに参加した高校生が、経験した企業に就職する	
26	経済企画課	若者の就業支援事業(高校生スキルアップ支援事業)	106	122・123・124 高校生を対象とした就職に向けたスキルアップ研修会を開催する	研修会を受講した高校生の実践的な職業意識が向上する	研修を受講した高校生の就職に向けた準備が整う	スキルアップ研修会を受講した高校生が、地元企業に就職する	
27	経済企画課	若者の就業支援事業(ジョブカフェいわて運営事業)	5,113	127 「ジョブカフェいわて」にカウンセラーを配置し、若者を対象に就職等に関するカウンセリングを行う業務を委託する	126 委託を受けた事業者が、若者を対象とした就職等に関するカウンセリングを実施する	カウンセリングを受けた若者が自らの適性に合った職種での採用試験を受ける	125 カウンセリングを受けた若者が、自らの適性に合った企業に就職する	カウンセリングを受けた若者の離職率が低下する
28	農政課(食と農の連携推進室)	食と農のバリューアップ推進事業(6次産業化等スタートアップ支援事業)	4,058	23 6次産業化等を行うおとする生産者及び事業者に対し、補助金を交付する	22 生産者及び事業者が、補助金を活用し商品・サービスの開発や改良、新たな販路の開拓等を行う	19 6次産業化をはじめとした、異業種連携の取り組みが活発になる	農業分野だけでなく地域資源の活用が促進され、地域経済の活性化が図られる	地域企業の雇用が増加する
29	農政課(産業振興課)	新規就業支援事業	57,135	25・236・239 新規就農者に対し、農業次世代人材投資資金及び新規就農者育成総合対策(経営開始資金・経営発展支援事業)を交付する 27 新規就農者に対し、親元就職給付金を交付する	24・236・237 新規就農者が、農業次世代人材投資資金及び新規就農者育成総合対策(経営開始資金・経営発展支援事業)を活用し農業をはじめ 26 新規就農者が、親元就職給付金を活用し農業をはじめ	新規就農者が、安定した営農を続ける		
30	農政課	盛岡りんご担い手バックアップ事業(りんご剪定作業担い手育成補助)	1,200	30・31 りんごの剪定作業の担い手確保に係る経費に対し、補助金を交付する	29 りんご農業者が、剪定作業の担い手を確保する	28 りんごの剪定作業の担い手の剪定作業受注件数が増加する		
31	林政課	林業労働対策事業(森のしごと見学会)	1,100	133 高校生から社会人を対象にした、林業・木材産業の関連事業の見学会の実施を委託する	131・132 委託を受けた事業者が、高校生、社会人を対象にした林業・木材産業関連事業の見学会を開催する	130 見学会参加者が、見学した林業・木材産業関連事業所に興味を持つ	129 見学会参加者が、仕事の内容を理解した上で、林業・木材産業関連の仕事に就く	128 林業における人材確保が進む
32	経済企画課	商業振興事業(企業サポート専門員)	3,196	229・230 企業サポート専門員を配置する	228 企業サポート専門員が、事業者や商店街等の意向や個別課題等の把握を行い、情報提供や助言・指導を行う	支援を受けた中小企業の経営の安定化が図られたり、円滑な事業継承が行われる 支援を受けた商店街等の運営の安定化が図られる	企業サポート専門員からの支援を受けた中小企業の所得が向上する 企業サポート専門員からの支援を受けた商店街等の取組が活性化される	
33	ものづくり推進課	盛岡テクノミュージアム設置事業	415	136 事業者に対して、盛岡テクノミュージアムに登録するよう働きかける 138 盛岡テクノミュージアムに登録した事業者に対し、製品や企業紹介スペースを設置する経費への補助金を交付する	135 地元企業が、盛岡テクノミュージアムに登録する 137 補助金を受けた事業者が、製品や企業紹介スペースを設置する	134 学生等が、盛岡テクノミュージアムに登録した企業を見学し、仕事内容や企業への理解を深める	セミナーや工場見学に参加した学生等が、企業の理解を深めた上で、ものづくり産業関連の仕事に就く	
34	ものづくり推進課	工業振興事業(企業サポート専門員)	3,422	140・141 企業サポート専門員を配置する	139 企業サポート専門員が、企業訪問を実施し、事業者の意向や個別課題等の把握を行い、情報提供や助言・指導を行う	支援を受けた中小企業が、円滑な事業継承を行う 支援を受けた中小企業の経営の安定化が図られる	企業サポート専門員からの支援を受けた中小企業の所得が向上する	

事業No.	担当課等	事業名	R5予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
35	経済企画課	雇用対策推進事業(新卒・若者就業支援事業)	1,380	155 盛岡地域雇用開発協会に負担金を支出する	148・149 盛岡公共職業安定所、盛岡広域振興局、盛岡地域雇用開発協会等が共催し、もりおか高校生就職面談会を開催する	147 もりおか高校生就職面談会に参加した高校生が、面談した企業の採用試験を受ける	146 もりおか高校生就職面談会に参加した高校生が、面談した企業に就職する	
					154 盛岡地域雇用開発協会が、企業ガイドブックを発行する	企業ガイドブックを見た高校生や若者が、企業ガイドブック掲載企業の採用試験を受ける	153 高校生の県内就職内定率が向上する	
					151・152 盛岡公共職業安定所、盛岡広域振興局、盛岡地域雇用開発協会等が共催し、もりおか就職ガイダンスを開催する	もりおか就職ガイダンスの参加者が、面談した企業の採用試験を受ける	150 大学生等の県内就職内定率が向上する	
36	子ども青少年課	児童館整備事業(仮称)太田児童センター整備事業)	300,649	160 太田小学校区に児童センターを整備する	159 太田小学校等に通う児童のうち、放課後の居場所が必要な児童が児童センターを利用する	太田小学校区における放課後の児童の居場所が確保される	児童センター、児童館を利用する児童の親が、安心して仕事ができる	156 仕事と家庭の両立が進み、盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる親が増加する
37	子ども青少年課	児童館管理運営事業(児童厚生員の適正配置)	29,261	162 指定管理者に対し、職員配置の適正化に必要な経費を支出する	161 指定管理者が、職員配置の適正化に向けて職員の雇用等を行う	児童センター、児童館を利用する児童の健全育成が図られる		
38	子ども青少年課	児童館管理運営事業(児童センター利用時間延長)	299	164 指定管理者に対し、児童センター利用時間延長に必要な経費を支出する	163 指定管理者が、体制を整備し、児童センター利用時間延長を行う	留守家庭児童の安全な居場所が確保される		
39	子ども青少年課	地域児童クラブ等運営事業(放課後児童クラブ家賃補助の拡充)	4,702	166 家賃負担をしている放課後児童クラブ運営団体に対し、家賃補助を拡充して支出する	165 家賃負担の軽減により、放課後児童クラブの安定した運営や事業内容の充実が図られる	留守家庭児童の放課後の安全な居場所の充実が図られる	放課後児童クラブを利用する児童の親が、安心して仕事ができる	
40	子ども青少年課	地域児童クラブ等運営事業(余裕教室を活用した放課後児童クラブ整備事業)	38,009	211 学校内に余裕教室を活用した放課後児童クラブを整備する	児童が安全に放課後児童クラブに通うことができる	210 留守家庭児童が安心して利用できる放課後の居場所が確保される		
41	子育てあんしん課	私立児童福祉施設運営費助成事業(医療的ケア児保育支援事業)	7,338	170 医療的ケアを行う看護師を配置しようとする保育園に対して財政支援を行う	168 保育園に医療的ケアを行う看護師が配置される	医療的ケア児を受け入れ可能な保育園が増加する	167 親の付き添いなく、医療的ケア児が保育園へ通えるようになる	
				171 保育士が喀痰吸引等の研修を受講する際の財政支援を行う	169 保育士が喀痰吸引等の研修に参加する			
42	子育て世代包括支援センター	子育て世代包括支援センター事業	10,108	173 妊産婦や子育て家庭の相談を窓口や電話等で実施する	妊産婦等が子育て支援に関する情報提供を受ける	妊産婦等が、必要な子育て支援事業を利用する	妊産婦等の心身の健康状態や新生児、幼児の養育環境が改善される	172 児童虐待が減少する
				174 支援が必要なハイリスク妊産婦に対し家庭訪問を行う				
43	子ども家庭総合支援センター	子ども家庭総合支援センター事業	19,499	177 子ども家庭総合支援センターを運営するとともに、児童虐待対応に係る関係機関との連携体制を構築する	176 児童家庭相談に対し適切な対応がとられる	175-1 児童虐待が未然に防止される 175-2 児童虐待が早期に発見され、早期に対応される		
44	子ども青少年課	子ども未来基金事業	29,855	個人・企業等に対して、寄附の呼びかけを行う	178 個人企業等が、子ども未来基金に対して寄附を行う	民間による子ども・子育て支援の活動が活発になる	盛岡市全体で子ども・子育てを支援する機運が高まる	
				180 企画提案方式により、市民・団体等が行う子ども・子育て支援の活動の費用を助成する	179 助成を受けた市民・団体が、子ども・子育て支援の活動を行う			
45	子ども青少年課	子ども・子育て情報発信事業	660	213 スマートフォンやタブレットなどで利用できる無料の「もりおか子育てアプリ」の運用を開始する	212 市から子育て世帯に対して、アプリを活用して子育て支援情報を発信する	子育て世帯が市で行っている子育て支援に関する情報を入力しやすくなる	より多くの子育て世帯に子育て支援事業が利用され、子育てに関する負担感が軽減される	
46	母子健康課	母子保健事業(産後ケア事業)	2,025	182 心身の疲労や育児不安など、支援が必要な産婦への心身のケアや育児のサポートを行う業務を、助産師・医療機関に委託する	181 心身の疲労や育児不安など、支援が必要な産婦が、心身のケアや育児のサポートを受ける	心身の疲労や育児不安などの症状が改善されるなど、産婦が安心して健やかに産後の生活が送れるようになる	産婦の心身の健康状態や新生児、幼児の養育環境が改善される	
47	母子健康課	母子保健事業(出産・子育て応援交付金等事業)	190,533	231 妊婦・子育て世帯に対し、併走型相談支援(妊婦届出時から乳児家庭全戸訪問までアンケート、面談)を行う	支援を受けた世帯の、子育てに関する不安が軽減される	子育て初期にゆとりが生まれる	子育て世帯が子育てを楽しんでいると感じる	
				232 妊婦・子育て世帯に対し、交付金(妊婦届出後5万円、出生届出後5万円)を支給する	支給を受けた世帯における出産や育児に係る経済的負担が軽減される			
48	母子健康課	不妊に悩む方への特定治療支援事業(不妊専門相談センターの設置・特定不妊治療交通費助成)	2,082	不妊専門相談センターを設置する	夫婦の状況に応じた不妊・不育に関する専門的な相談ができ、支援を受けられる	妊婦・出産を望む人が安心して治療に取り組める	生まれる子どもの数が増える	
				医療保険で適用される特定不妊治療に係る交通費の一部を助成する	治療を受けた世帯の経済的負担が軽減される		身近で専門的な相談ができる環境を整備することで仕事と家庭の両立につながる	
49	男女共同参画推進室	男女共同参画推進事業(もりおか女性センター管理運営)	63,126	218 男女共同参画推進室、女性の起業・就業支援や相談事業等を、もりおか女性センターを拠点に委託して実施する	217 関心のある女性や困難を抱えた女性が受講、相談する	216 受講・相談した女性が自信を付け就業・起業や社会参加への意欲が高まる	215 就業や起業、社会参加する女性が増える	214 社会への女性の参画や経済的自立が促進される
50	男女共同参画推進室	男女共同参画意識啓発事業	344	223 働く女性や企業、経営者に向けた人材育成セミナー、男性の育児・家庭参画を促進する啓発事業等を実施する	222 関心のある女性・男性や経営者が受講する	221 受講した人や経営者の男女共同参画推進意識が高まる	220 互いを尊重し個性や能力を発揮できる職場環境の整備が進む	219 ワークライフバランスが促進され、男性も女性も働きやすい社会になる
51	学校教育課	特別支援教育事業(医療的ケア学校看護師の配置)	7,818	184・185 学校へ医療的ケアを行う看護師を配置する	学校が医療的ケア児を受け入れられるようになる	183 親の付き添いなく、医療的ケア児が通学できるようになる		
52	経済企画課	魅力ある職場づくり推進事業	1,096	189 中小企業を対象としたICT技術の活用を含めた働き方改革に関する研修会の開催を委託する	187・188 委託を受けた事業者が、中小企業を対象に、ICT技術の活用を含めた働き方改革に関する研修会を開催する	186 研修会に参加した中小企業が、ICT技術を活用した働き方改革を実施する	研修会に参加した中小企業のWLBが実現され、働きやすい職場になる 研修会に参加した中小企業の労働生産性が向上する	

プロジェクト投入額 1,252,815

【戦略プロジェクト評価(令和5年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	回復から成長へ！まちなか交流・にぎわいプロジェクト	戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
期待する効果	多くの人が行き交いコロナ前よりもにぎわいと活気にあふれるまちになる	新型コロナウイルス感染症の流行に伴う行動制限やイベント自粛等は、まちなかへの来訪者を激減させ、飲食・宿泊業が集積する中心市街地に大きな打撃を与えた。本市や岩手県の社会経済活動を牽引し、地域の消費や交流の中核を担ってきた中心市街地の活性化は、持続的な発展を目指す本市にとって重要な課題であり、コロナ禍前の社会経済活動を早急に取り戻すことはもとより、新しい生活様式を踏まえながら、さらに多くの人々をまちなかに惹きつけ、まちなかに交流とにぎわいを生み出していくことが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナからのV字回復 令和5年1月、米ニューヨーク・タイムズ紙(電子版)が発表した「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が選ばれ、国内外に本市の魅力を発信する絶好の機会となっており、観光需要回復への期待が高まっていることから、好機を活かした更なる誘客促進や消費の拡大を図るため、東北六市や盛岡広域8市町と連携したプロモーション、MICE(マイス)の誘致等を推進する。また、まつり・イベントの振興等により来訪者に盛岡らしいおもてなしを提供するほか、地域経済への波及効果が期待される高規格スポーツ施設を活用した誘客コンテンツの拡充・強化に取り組む。 ○ ポストコロナの交流・新展開 観光客や市民等によるまちなかの社会経済活動を活性化させるため、感染拡大防止と社会経済活動を両立させながら、芸術や文化、スポーツ等を通じて人々が交流できる機会を創出する。また、SNSやオンラインを活用した交流のほか、デジタル技術等を活用し、市外の方が積極的に本市と関わりをもつ機運を醸成するための仕掛けづくりなど関係人口や交流人口の創出・拡大に取り組む。 ○ 市民の日常に生まれるにぎわいの創出 まちなかに日常のにぎわいと活力を生み出すため、商店街等の活性化支援や地域の魅力をつなぐ結節点「ローカルハブ」をコンセプトとした盛岡バスセンターのにぎわい機能による周辺エリアの価値向上、デジタル技術を活用した公共交通の利便性向上、将来のまちづくりを見据えた内丸地区における一体的再整備のプラン構築に取り組む。また、バスセンターと近接する地区の再開発による交流拠点の整備を促進するほか、公園・歩道等の公共空間を活用した居心地の良い空間の整備に取り組む。
重点取組期間	令和4～6年度		対象(誰(何)を対象として行うのか)
主管部名	交流推進部	国内外の人	盛岡に来てもらう(交流人口が増える)。
戦略プロジェクト統括マネージャー	太田 真 交流推進部長	市民	盛岡に愛着を持ってもらう。

目標指標の状況・評価(令和5年7月時点)

実績値の推移				実績の評価		今後の展開(評価時点～令和6年度)
指標①	観光客入込数	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	評価を踏まえた今後の取組
当初値(H28)	500	万人回	△	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年1月にニューヨークタイムズ紙の「2023年に行くべき52カ所」にロンドンに次いで2番目に選定されたことを契機に、国内外からの観光客の受入態勢の整備及び積極的な誘客宣伝活動を行うことにより、観光客入込数の回復に寄与した。 ・チャグチャグ馬コ及び盛岡さんさ踊りなどの伝統行事やまつりイベントを通常開催することにより、多くの観光客が本市を訪れ、街なかの賑わい創出や、盛岡の魅力発信と再訪につながる取組となった。 ・東京圏在住の若年層を対象とした「盛岡という星で」プロジェクトにおいて、盛岡を身近に感じられるよう情報発信を行い、Instagramを中心にフォロワーが増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類に引下げになったことに伴い、国内外からの観光客の受入態勢の整備及び誘客宣伝活動を積極的に行ったことや、伝統行事やまつりイベントの4年ぶりの通常開催に対し、観光客の期待が大きかったことが要因として挙げられる。 ・各種SNSを活用し継続的な情報発信に取り組んだほか、東京圏で開催されたイベントや相談会にて当該取組の周知を図った結果、フォロワーが増加したものと推察される。 	
R6目標値 530 目指す方向 ↗		「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析			
				<ul style="list-style-type: none"> ・国内外からの観光客の誘客促進を図るため、継続的な事業推進のための予算の確保が行えるかが課題である。 ・チャグチャグ馬コなどの郷土伝統芸能の後継者不足や馬資源不足等により、伝統行事の継続開催ができなくなる恐れがある。 ・Instagram等により情報発信することを通じて、盛岡を想起する機会を提供することのみならず、本市への来訪する意欲のある関係人口をいかにして創出するかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外からの観光客の受入態勢の整備及び積極的な誘客宣伝活動の実施による、具体的な効果等の検証を行う必要がある。 ・チャグチャグ馬コなどの郷土伝統芸能の継続に向けて、行事の認知度の向上のほか、行事に関わる人員や後継者の確保、馬資源の確保の必要性など、応援してもらう機運醸成を図るための周知が不足している。 ・情報発信に加え、来盛したいと思わせる仕組みづくりが必要である。 	

指標② 中心市街地の通行量	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	<p>☆1 商店街向けの補助事業について、制度設計の見直しを行ったことから、活用されていない商店街に働きかけを行う。</p> <p>☆2 イベント開催は、集客効果が高いほか、中心市街地の魅力向上につながることから、盛岡バスセンターの開業を機会としたイベントや、街路を活用したイベントの開催などについて、新たな補助制度を創設しながら、商店街団体や商業者の取組を後押しする。</p> <p>☆3 映画の街盛岡の推進にあたり、ゆかたのまち盛岡や商店街イベントなどと連携した取組を推進することで、中心市街地への新たな人の流れの創出を図る。</p> <p>☆4 市(いち)を起点した街なかの賑わい創出や、盛岡の食文化を盛り上げる取組につながるイベント開催等の支援を行う。</p> <p>☆5 AIを活用した人流・交通分析システムを整備したことから、データの利活用について調査研究を実施する。</p> <p>☆6 令和4年度で終了した中心市街地活性化つながるまちづくりプランについて、第2期プランを策定し、継続的に官民一体となった中心市街地の活性化を図る。</p> <p>☆7 モリオペイや人流データを活用した地域企業のマーケティングを支援する体制を構築するために、実績やノウハウを持つ民間事業者と連携した共同研究などを行う。</p> <p>☆8 ニューヨークタイムズ紙効果により、若者が経営する飲食店や雑貨店などの商業・サービス事業者が注目されていることから、中心市街地での空き店舗等を活用した商業・サービス事業者の育成を図る取組や、小規模で経営する個店がフォーカスされるような取組を検討する。</p> <p>☆9 盛岡の美味いもんアンバサダー制度の周知を図り、アンバサダー店舗数の増加により街なかの賑わいの創出を図る。</p> <p>☆10 施設の認知度向上のため、通信の発行やイベントの開催を行うほか、高校生等の探究学習を支援し、高校や大学等への周知を図ることで利用者を増加させる。</p>
	人回	○	<p>・新型コロナウイルス対応経済対策事業に関連した補助金の交付や、消費喚起策を講ずることで、中心市街地の賑わい創出を図ることができた。</p> <p>・市内中心部の百貨店内に関係人口交流拠点「盛岡という星でBASE STATION」を開設し、1.4万人が来場した。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこと、ニューヨークタイムズ紙効果により新たな人の流れができてきていることなどもあり、商店街団体や事業者も積極的な活動を展開できるようになっていることから、交通量の増加につながる要因の1つとして推察される。</p> <p>・SNSを中心とした情報発信や定期的なイベント開催により、拠点の認知を高めた。</p>	
当初値(H30) 13,094	R6目標値 17,500	目指す方向 ↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点		
			問題点の要因分析		
			<p>・コロナ禍前の賑わいの回復が期待される一方で、消費行動の活性化に結び付ける仕組みを定着させていく必要がある。</p> <p>・中心市街地における歩行者・自転車交通量が計測日の天候の影響もあり、令和3年度と比較して減少しているが、令和4年度末に新たに整備したAIを活用した人流・交通分析システムでの集計結果をみると一定程度の人の流れが見られるようになっている。</p> <p>・「盛岡という星でBASE STATION」が交流拠点として認知されたことにより、休日はイベントが開催されるなど賑わいが創出されているが、平日の利用者が少ない傾向にある。</p>	<p>・外に出る機会が増えつつあるが、コロナ禍においてインターネットショッピングの定着が進んだことから、消費行動の変化に対応しきれていないことが要因の1つとして推察される。</p> <p>・ニューヨークタイムズ紙でも評価された魅力ある店舗は小規模経営である場合も多く、その魅力が十分に発信されていない場合があると推察される。</p> <p>・本市の商業・サービス業は小規模経営が多く、マーケティングノウハウが定着しづらい環境にある。</p> <p>・高校生等が、平日の放課後に探究学習の活動の場として利用できることが周知しきれておらず、学生が利用可能な拠点としての認知が不足している。</p>	
指標③ 都市機能誘導区域*1等の流動人口*2	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	<p>☆1 内丸地区の一体的な再整備の基本的な方向性(土地利用、交通、都市空間デザイン等)を懇話会、各施設関係者の実務者会議、有識者会議等で検討し、具体的な事業手法等を盛り込んだ(仮称)内丸プランを取りまとめる。</p> <p>☆2 河南地区における商業施設等の再開発のほか、公園・歩道等の公共空間を活用した居心地の良い空間の整備により、賑わい環境の創出を図り、中心市街地の魅力向上を目指す。</p>
	人	△	<p>・内丸地区は、官公庁施設のほか、文教施設や医療施設が集積し、昼間人口密度や従業員密度が高い地区であり、流動人口に大きく影響している。</p> <p>・中ノ橋通一丁目地区市街地再開発事業は、土地の共同化、建物の集約化により都市機能の更新と土地の高度利用、防災性の向上を図るとともに、施設整備により賑わいの創出を促進する。</p>	<p>・多くの従業者が内丸地区外からアクセスしており、隣接する大通地区、菜園地区、河南地区において、消費、飲食、公共交通利用等の副次的な波及効果を創出している。</p> <p>・バスセンター開業に伴う公共交通の利便性向上とあわせ、中ノ橋通一丁目地区の市街地再開発により河南地区のエリア価値が向上し、中心市街地活性化が見込まれる。</p>	
当初値(H30) 68,456	R6目標値 80,000	目指す方向 ↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点		
			問題点の要因分析		
<p>*1 都市機能誘導区域 盛岡市立地適正化計画で設定している、医療・福祉・子育て支援・商業等の都市機能を維持・誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域。</p> <p>*2 流動人口 13時から14時において対象地点に滞留している人の推計値。地域経済分析システム(RESAS)より抽出したもの。</p>			<p>・内丸地区は、建物群の老朽化、官公庁の一部移転等により、中心市街地の吸引力等が低下している。</p> <p>・内丸地区に立地する施設の老朽化や更新に対し、一体的な計画や調整する仕組みが不足していた。</p>		

※進捗状況の評価(4段階) ☆:目標値に到達、◎:目標値に向け順調に推移、○:目標値に向け推移、△:遅れが生じている

事業名	担当部署	目指す方向性	事業名	R5予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果	
1	スポーツツーリズム推進室	コロナからの学び	スポーツ大会・合宿誘致事業(合宿開催補助事業)	1,208	5 合宿費補助金を申請者に支出する	4 申請者が市内の民間宿泊施設を利用して合宿を行う	5 申請者との練習試合等を実施し、市内の競技力が向上する	3 競技力の向上により、本事業による合宿を希望する団体が増加する	スポーツに関連し、盛岡を訪れる人が増加する	交流人口が増加する
2	スポーツツーリズム推進室	コロナからの学び	地域おこし協力隊活用事業(盛岡広域連携スポーツツーリズムの推進)	4,440	9 盛岡広域の魅力を国内外に発信するため、地域おこし協力隊を任用する	8 地域おこし協力隊員が、盛岡広域へのPR活動と連携しながら、盛岡広域の魅力を国内外に発信し、HPやSNSを通じて国内外に発信する	7 HPやSNSにより、スポーツを通じて、盛岡広域に関心をもつ人が増える	6 合宿や大会の誘致が成功し、選手・関係者や観客が訪れる	スポーツに関連し、盛岡を訪れる人が増加する	交流人口が増加する
3	スポーツ推進課	コロナからの学び	いわて盛岡ボールパーク管理運営事業	276,453	15 「いわて盛岡ボールパーク」を若手県民共同運営する	12 特別目的会社「盛岡南ポールパーク」を設立し、プロ野球公式戦の誘致や大学サッカーリーグ等の取組を進め、イベントの開催を推進する	11 プロ野球公式戦や大学サッカーリーグが開催される 10 盛岡で国内トップレベルの試合が開催される	盛岡を訪れる観客(観光客)数が増加する	中心市街地が活性化される	
4	公園みどり課	コロナからの学び	盛岡地区かわまちづくり事業	1,000	20 「舟運実行委員会」に負担金を支出する	18 「舟運実行委員会」が試作舟による社会実験「フェスタ」を行う 19 「舟運実行委員会(総会)」において舟運導入に向けた具体的な検討が進む	17 社会実験「フェスタ」に市民が参加する 舟運事業の実施に向けた機運が高まる	盛岡を愛する人が増える		
5	食と農の連携推進室	コロナからの学び	盛岡の食材プロモーション事業	3,151	39 盛岡市農産物産出促進協議会に負担金を支出し、もりおかの実味いもんアンバサダー認定制度の運用、盛岡産産物の情報発信を行う	盛岡産産物を活用した特徴的なメニューが増加する	盛岡の「食と農」を応援するファンが増加する 市内に魅力的な店舗が増える	盛岡の「食と農」を応援するファンがSNS等で盛岡の「食と農」の情報を発信する 38 盛岡を訪れる観光客(観光客)数が増加する	中心市街地が活性化される	
6	観光課	コロナからの学び	観光客誘致宣伝事業(東北六市連携事業)	5,000	27 東北六市連携事業負担金を支出する	25 6市が連携して首都圏等で盛岡のプロモーションを行う 26 6市が連携して海外で盛岡のプロモーションを行う	首都圏等で盛岡のプロモーションを受けた外国人が、盛岡を訪れる 海外で盛岡のプロモーションを受けた外国人が、盛岡を訪れる	21 外国人観光客(宿泊客)数が増加する		
7	観光課	コロナからの学び	観光客誘致宣伝事業(2023年に行くべき盛岡プロモーション「受入環境整備事業」)	20,000	156 おもてなし推進協議会に負担金を交付する	156 おもてなし推進協議会が国内外の旅行客等の受入体制整備(もりおかプレミアム街歩き等の実施や臨時観光案内所設置など)を行う 157 おもてなし推進協議会が国内外の旅行客等の誘客宣伝活動(ニューロク市への観光バスツアー「みんこぼの満喫」)を行う	盛岡を訪れた旅行客が旅行中に盛岡のおもてなし(受け入れ態勢)を享受し、再度訪れたいと感じる 国内外から盛岡への旅行意欲が高まる	38 盛岡を訪れる観光客(観光客)数が増加する(再掲)		
8	観光課	コロナからの学び	観光団体育成強化事業(盛岡伝統芸能常設公演事業)	3,870	33 「盛岡つなぎ温泉観光協会」に盛岡伝統芸能常設公演を実施する補助金を交付する	32 「盛岡つなぎ温泉観光協会」が、盛岡つなぎ温泉で、盛岡さん語りを中心とした市の伝統芸能を常設公演する	31 盛岡つなぎ温泉に宿泊する外国人観光客が増加する			
9	観光課	コロナからの学び	まつり・イベント振興事業(盛岡さん語り)	13,775	45 「盛岡さん語り実行委員会」に負担金を支出する	44 「盛岡さん語り実行委員会」が盛岡さん語りを開催する	43 盛岡さん語りハワードを観覧する観光客が訪れる			
10	観光課	コロナからの学び	まつり・イベント振興事業(チャグチャグ馬コ行事)	6,422	48 「チャグチャグ馬コ保存会」に負担金を支出する	47 「チャグチャグ馬コ保存会」がチャグチャグ馬コ行事を開催する	46 チャグチャグ馬コ行事を観覧する観光客が訪れる			
11	観光課	コロナからの学び	まつり・イベント振興事業(盛岡秋まつり山車)	6,714	51 「盛岡山車推進会」及び「盛岡観光コンベンション協会」に山車製作及び大輪巻ハワード開催に係る補助金を支出する	50 市内各組及び盛岡観光コンベンション協会が山車を運行する	盛岡秋まつり山車を観覧する観光客が訪れる			
12	観光課	コロナからの学び	まつり・イベント振興事業(もりおか街なかイルミネーション事業)	10,000	54 「もりおか街なかイルミネーション実行委員会」に負担金を支出する	53 中心市街地において、「もりおか街なかイルミネーション実行委員会」がイルミネーション事業を実施する	52 冬季間の中心市街地の賑わいの創出及び観光誘致が図られる			
13	観光課	コロナからの学び	広域観光推進事業(盛岡・八幡平広域観光推進協議会事業)	3,181	57 「盛岡・八幡平広域観光推進協議会」に負担金を支出する	56 「盛岡・八幡平広域観光推進協議会」が観光客誘致事業を実施する	55 盛岡・八幡平広域に多くの観光客が訪れる			
14	観光課	コロナからの学び	MICE(マイス)誘致推進事業	13,000	73 「(公財)盛岡観光コンベンション協会」に補助金を支出する	72 「(公財)盛岡観光コンベンション協会」がMICE(マイス)助成の募集を行い、申請を受ける	71 MICE(マイス)開催者が、「(公財)盛岡観光コンベンション協会」からの助成を受けてMICEを開催する	70 MICE(マイス)に関連し、盛岡を訪れる人が増加する		
15	文化国際課	コロナからの学び	姉妹都市等国際交流事業	37,671	36 姉妹都市カナダ・ビクトリア市との姉妹都市交流を実施する 37 友好都市台湾・花蓮市との友好都市交流を実施する	34 ビクトリア市との姉妹都市交流に市民が参加する 35 花蓮市との友好都市交流に市民が参加する	姉妹都市ビクトリア市との交流が盛んに、市民の国際感覚やシビックプライドの醸成が図られる 友好都市花蓮市との交流が盛んに、市民の国際感覚やシビックプライドの醸成が図られる	国際交流活動を支える新たな担い手の育成や、交流の場の創出が促進され、外国人観光客の受入環境の整備につながる		
16	文化国際課	コロナからの学び	友好都市等交流事業(文京区友好都市提携5周年記念事業)	1,142	盛岡市・文京区友好都市提携5周年を記念し、両市の相互訪問及び各種交流事業を実施する	各種交流事業に市民が参加する	文京区をはじめとする友好都市について市民の関心が深まり、交流事業の機運が図られる	市民の生活の質の向上やまちのにぎわい、魅力向上に資する		
17	文化国際課	ポストコロナの学び・新展開	芸術文化活動振興事業(盛岡文士劇東京公演開催準備)	3,000	76 「盛岡文士劇東京公演実行委員会」に負担金を支出する	75 「盛岡文士劇東京公演実行委員会」が、友好都市を提携した文京区で盛岡文士劇東京公演を開催する	74 盛岡文士劇東京公演に、多くの観覧客が訪れることにより盛岡の歴史文化などの魅力発信につながる	盛岡を愛する人が増える(再掲)		
18	文化国際課	ポストコロナの学び・新展開	芸術文化活動振興事業(盛岡国際俳句大会)	6,366	60 「盛岡国際俳句大会実行委員会」に負担金を支出する	59 「盛岡国際俳句大会実行委員会」が盛岡国際俳句大会を開催する	58 盛岡国際俳句大会に、多くの参加者や観覧客が訪れることにより盛岡の魅力発信につながる			

事業名	担当部署	目指す方向性	事業名	R5予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
19	スポーツ推進課	ポストコロナの交流・新展開	生涯スポーツ推進事業(競技大会等開催事業(いわて盛岡シテマラソン))	35,000	16「いわて盛岡シテマラソン実行委員会」に負担金を支出する	15「いわて盛岡シテマラソン実行委員会」が大会を開催する	14 市民や全国からの参加者が「いわて盛岡シテマラソン」に出場する	スポーツに関連し、盛岡を訪れる人が増加する(再掲)	交流人口が増加する(再掲)
20	都市戦略室	ポストコロナの交流・新展開	移住・定住・交流人口対策事業(関係人口の創出・拡大等)	16,344	105 関係人口交流拠点「盛岡という星でBASE STATION」を設置する 106 盛岡という星で軸とした情報発信を委託する 107 関係人口を可視化する仕組みの構築を委託する	102 盛岡という星でBASE STATIONを運営する 103 盛岡という星で軸とした情報発信を行う 関係人口を可視化する仕組みを構築する	98 盛岡という星でBASE STATIONに利用者が訪れる 99 盛岡という星でSNSのフォロワーが増加する 100 可視化された関係人口に情報が発信される	移住・定住先としての盛岡の魅力や具体的な課題が認識される 盛岡を愛する人が増える 96 移住・定住先として、盛岡に興味を持ち、移住・定住に向けた具体的な検討を行う人が増える	95 移住者が増加する
21	観光課	ポストコロナの交流・新展開	観光客誘致宣伝事業(デジタル観光周遊プロジェクト)	3,000	160 デジタル観光周遊プロジェクト事業を委託する	159 委託者がデジタルマップ等の作成により携帯用アプリケーションを完成させ、運用を行う	観光客の盛岡効果における利便性が高まり、リピーターが増加する	38 盛岡を訪れる観光客(観光客入込数)が増加する(再掲)	
22	観光課	ポストコロナの交流・新展開	まつり・イベント振興事業(全国高校生短歌大会)	4,275	66「全国高校生短歌甲子園実行委員会」に負担金を支出する	65「全国高校生短歌甲子園実行委員会」が全国高校生短歌甲子園大会を開催する	64 全国高校生短歌大会に多くの参加者や観覧者が盛岡を訪れる		
23	文化国際課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	芸術文化活動振興事業(市民文化祭事業)	1,036	112 もりおか市民文化祭を実施する	111 もりおか市民文化祭に芸術文化団体が参加する	110 市民が参加団体の芸術活動に触れる機会が生まれる		108 芸術文化活動を通じた市内での人の交流が促進される
24	文化国際課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	芸術文化活動振興事業(芸術・伝統文化体験事業)	2,200	115 芸術・伝統文化体験事業を委託する	114 芸術・伝統文化体験事業を実施する	113 市民が芸術や伝統文化に触れる機会が増加する		
25	スポーツ推進課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	スポーツ活動機会提供事業(新生活様式における健康づくり及び経済振興支援事業)	4,600	121 アプリを製作する 120 インセンティブとして地域電子マネー(MORIO-PAY)を付与する	119 市民等がアプリをダウンロードする	118 歩くことで地域電子マネーが当たるため、意欲的に歩くようになる	117 地域電子マネー利用可能店舗の経済支援となる	市民の健康づくり活動が促進されるとともに、市内の経済活性化が図られる
26	都市計画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	内丸地区再整備事業(仮称)内丸プラン作成業務)	20,000	77 内丸地区再整備基本計画案作成業務を委託する	内丸地区再整備基本計画案がまとまる	内丸地区の再整備の具体像を認識できる	内丸地区を含む中心市街地への魅力が増える	
27	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	商店街等指導事業(商店街等魅力強化支援事業)	90	132 商店街が実施する研修に対する講師派遣に係る支援を行う	131 商店街の魅力向上に係る研修会が実施される	130 研修を実施した商店街において、魅力向上に向けた取組が促進される		
28	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	商店街活性化支援事業(映画の街並み)推進事業)	1,200	135 映画の街並み推進事業実行委員会に負担金を支出する	134 映画館通りに対する意識の醸成などを目的としたイベントなどを企画・実施する	133 映画に関連したイベントに市民が参加する		
29	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	商店街活性化支援事業(商店街活性化支援事業)	650	136 盛岡市商店街連合会に補助金を支出する	137 盛岡市商店街連合会から商店街、街路を活用したイベントなどに係る経費に対する補助金が支出される	136 商店街において、街路を活用したイベント開催、ハンギングバスケットやベンチの設置などが行われる	商店街の魅力が向上する	中心市街地が活性化(再掲)
30	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	商店街活性化支援事業(商店街情報発信事業)	300	140 盛岡市商店街連合会に補助金を支出する	140 盛岡市商店街連合会から商店街に、情報発信に係る経費に対する補助金が支出される	139 商店街において、魅力向上に必要な表示のほか、お買い物マップの作成などが行われる		
31	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	商店街活性化支援事業(商店街イベント事業)	2,185	144 盛岡市商店街連合会に補助金を支出する	143 盛岡市商店街連合会から商店街等に、商店街等が主体となった催事に係る経費に対する補助金が支出される	142 商店街等が主体となった催事が行われる		
32	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	商店街活性化支援事業(カウマナーレジメント機関支援事業)	6,550	163 盛岡まちづくり圏がおこなうAI活用した商店街の交通量調査に補助金を支出する 164 盛岡まちづくり圏に対し、地域活性化起業者(三次都市圏の民間企業社員)分の人材費を支出する	162 盛岡まちづくり圏がAIを活用した商店街において交通量調査を実施する 地域活性化起業者が盛岡まちづくり圏に対し、意識啓発の集客力向上や賑わい創出に係る取り組みに係る適切な助言を行う	161 調査の結果を商店街におけるイベント企画や事業者(出店希望者)等が入手し、事業に役立てる 盛岡まちづくり圏が商店街の集客力向上や賑わい創出に向けた効果的施策を展開する		
33	経済企画課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	地域おこし協力隊活用事業(中心市街地活性化)	4,800	165 中心市街地の活性化を図る事業を行う目的とするため、地域おこし協力隊を任用する	地域おこし協力隊員が、イベント企画や商店街等のイベント開催支援に取り組み	中心市街地において、イベントが開催され、賑わいが創出される		
34	道の駅推進課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	道の駅設置事業	1,788,604	道の駅を整備する 道の駅で観光情報発信の準備をする 道の駅にフューチャーセンターを整備する 道の駅に産産・物産を設ける 69 高校生による特産品開発を行う	道の駅が関係する 道の駅を訪れた人に向けて観光情報を発信する 道の駅の産産・物産施設において、開発した特産品や地域の農産物を販売する 道の駅に産産・物産を設ける	67 道の駅に、市民や市外・県外の人が訪れる 道の駅から地域に滞在する人が増える 68 道の駅を訪れた人が特産品や地域の農産物を購入する 道の駅で購入した人が盛岡の「食と農」の情報を発信する	盛岡を愛する人が増える(再掲) 38 盛岡を訪れる観光客(観光客入込数)が増加する(再掲)	
35	公園みどり課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	お城を中心としたまちづくり事業(盛岡城跡公園芝生広場整備事業)	288	81 P-FI事業者からの家賃事業計画案等の協議を進めながら、芝生広場整備事業関係者懇話会を開催する	80 事業への市民の理解が深まり、整備事業が実施される	79 市民・観光客が利便施設を利用する 78 芝生広場等を活用したイベントが開催される	P-FI事業者による、公共空間を活用した賑わいの創出が図られる	
36	まちなか未来創生室	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	市街地再開発事業(中ノ橋通一丁目地区)	769,971	152 中ノ橋通一丁目地区市街地再開発組合に補助金を支出する	151 中ノ橋通一丁目地区市街地再開発組合が、再開発ビル(商業業務施設等)の整備を進める	149 西街区完成に伴い、施設に利用者が訪れる 150 東街区完成に伴い、まちなか居住が推進される	145 河南地区の賑わいが創出される	中心市街地の通行量が増加する
37	公園みどり課	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	動物公園整備事業	253,918	87 動物公園指定管理料を指定管理者である(株)もりおかパークマネジメントに支出する 86 動物公園再生事業負担金を事業の特別目的会社である盛岡市動物公園再生事業(株)に支出する	85 (株)もりおかパークマネジメントにおいて動物公園の管理運営が行われる 84 (株)もりおかパークマネジメント及び盛岡市動物公園再生事業(株)において動物公園再生事業が実施される	83 公益連携事業により、市財政負担の軽減が図られるとともに、質の高い市民サービスの提供が可能となる 82 動物公園再生事業により、動物公園施設がリニューアルされ、動物公園の持つ魅力がさらに向上する	動物公園の集客力が向上することで、盛岡市内外からの来園者が増加する	
38	まちなか未来創生室	市民の日常に生まれる「にぎわい」の創出	まちなかウォーカーブル推進事業	109	155 コロナ特例やほこみち指定による道路占用制度の活用を支援する	154 商店街などが、新たな制度を活用して道路占用を行う	153 道路空間を利用したウォーカーブル取組が実施される	商店街などのにぎわいが創出される	

プロジェクト投入額 3,881,643

(余白)

ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡を目指して
・・・進めています、自治体経営



行政評価結果

問合せ先 盛岡市市長公室 企画調整課

〒 020-8530 盛岡市内丸 12 番2号

電話 019-613-8394(直通)

電子メール kikaku@city.morioka.iwate.jp
